



—北アフリカ・東地中海地域ニュース—

シリア・イスラエル：イスラエル軍機によるシリア領内の施設爆撃

1月30日、イスラエル軍機がシリア国内で空爆作戦を行ったようである。イスラエル軍は沈黙している。空爆の標的については、研究施設（シリア軍発表）、兵器を積んだ車列（各種報道）と複数の説がある。米国筋は、攻撃については確認したと報道されている。レバノン軍は、29日から30日未明にかけて、イスラエル軍機が領空内で活発に活動していたと発表している。

シリア軍発表

30日、シリア軍総司令部はイスラエル軍機の領空侵犯と爆撃について要旨以下の通り声明を発表した。

- * イスラエルはシリア人民に敵対する諸国やシリア国内で重要施設・軍事施設を攻撃する手先と協力してきた。犯罪集団が2年近くにわたり防空施設やその他重要拠点の一部に対する攻撃に成功し、多くに失敗した。そのような中イスラエル軍機複数が30日早朝にシリア領空を侵犯し、抵抗と自衛力の向上に責任を負う研究施設の一つを直接爆撃した。施設は、ダマスカス郊外県ジャムラーヤーに位置する。この施設に対しては、テロ集団が過去数カ月にわたり占拠を試み、失敗していた。
- * イスラエル軍機はヘルモン山北方からレーダーで捕捉できない低空で侵入し、ジャムラーヤーにある科学研究所の支所の一つを爆撃した。これにより甚大な物的損害が出て、施設建物に加え隣接する戦車開発センター、車両修理センターが破壊された。これにより、職員2名が殉教、5名が負傷した。戦闘機は、進入と同じ経路で撤収した。
- * 一部報道機関はイスラエル軍機がシリアからレバノンに向かっていた車列を狙ったと報じているが、これは正しくない。戦闘機は、シリアの主権と領空を明白に侵犯し、研究施設を攻撃したのである。
- * これまで明らかになってきたように、イスラエルこそがシリアとその人民を標的とするテロ活動の推進者・受益者・実行者であり、これにトルコ、カタールをはじめとするテロ支援国が加わっているのである。総司令部は、この攻撃はイスラエル占領政体の侵略・犯罪の長い歴史に付け加えられるものであると確認する。また、この犯罪行為がシリアとその役割を弱体化させることはなく、シリア人は諸般の抵抗運動の支援、パレスチナ問題をはじめとする正当なアラブの権利の支援をやめないと強調する。

(評価：シリア側の視点)

シリア軍の発表では、攻撃を受けたのはシリア領内の施設であり、レバノン領でも車列でもない。また、この発表を見る限りでは、大量破壊兵器やヒズブッラーとの関連を示す材料は皆無である。一方、イスラエルがシリア領内のいかなる場所、施設も望めばいつでも攻撃でき、それに対し国際的な非難が全く寄せられないという構図は、近年ますます強まっている。すなわち、今般の攻撃により、トルコ、カタール、サウジの支援を受けた「反体制派」が軍の施設や社会資本への襲撃を繰り返す中、シリアの防空戦力は着実に弱体化していることが改めて示された。その上、本来は理由の如何にかかわらず否定されるべき他国に対する越境攻撃が、現在のシリア情勢の文脈では、アサド政権を攻撃する限りどのような行為でも容認されるとの外交的な雰囲気の中、全くの不問に付される可能性が高い。このような形でのシリアへの攻撃・干渉は、シリア人の人命・生活・社会資本・財産・秩序になんら配慮することなく、いたずらに混乱を助長するだけのいわゆる「国際社会」の無責任な態度の一環と位置づけられるものである。

(高岡研究員)

(評価2：イスラエル側の視点)

イスラエルは、シリア内戦に係わらないようにしてきた。例外は、1) ゴラン高原での越境攻撃、2) シリアの化学兵器及び同兵器のヒズブッラーへの移送である。

ゴラン高原では、2012年中に数回の越境砲撃があった。イスラエル軍は、報復砲撃を行ったが、限定的だった。基本的には、ゴラン高原は平穏である。

イスラエル軍が、強い関心を持っているのは、シリア軍が保有していると彼らが考えている化学兵器である。イスラエルは、シリア軍が反体制派に化学兵器を使用すること以上に、ヒズブッラーあるいは他の組織に化学兵器が渡されることを警戒していた。イスラエル政府・軍幹部は、シリアがヒズブッラーに化学兵器を渡すような行動に出れば、イスラエル側の「レッド・ライン」を超えた行動と見なすと警告してきた。他方、2013年1月になって、イスラエル側は、シリア軍が保有する通常兵器が、ヒズブッラーに流れることへの懸念を表明している。

イスラエル軍が攻撃した標的は、まだはっきりしない。しかし、これまでのイスラエル側の発言から推定すれば、化学兵器に関する標的、あるいは、イスラエル軍が、ヒズブッラーが保有することを嫌っているハイテクの通常兵器の可能性もある。報道では、標的はロシア製の地対空ミサイル SA-17 との報道もある。

1月27日、イスラエル軍は、ロケット弾迎撃システム「鋼鉄の屋根」をハイファに配備した。演習かもしれないし、NATO軍がトルコ南部にパトリオットを配置したことに対応する措置かもしれないが、ヒズブッラーからのロケット弾攻撃があると想定した動きとも推定できる。

(中島主席研究員)